

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「心の触れ合いと笑顔を大切に」という施設理念を各ユニット・正面玄関に掲示するとともに、新入職員にはオリエンテーションの中で、施設理念に関する講義に盛り込むとともに、業務中も利用者や御家族が来訪された際、意識して対応するよう心掛けている。	施設理念『心の触れ合いと笑顔を大切に』は、玄関や会議室など目に付くところに大きく掲示されています。新人職員研修の講義で理解促進され、スタッフはご利用者やご家族へ実践し、施設内の明るい雰囲気に繋がっています。業務内のスタッフ間の相談事も、lineで気軽にでき、コミュニケーションが図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で自粛していることは多くあるが、冬の雪かきなどは行っている。	コロナ禍の為に、諏訪湖への散歩など自粛しております。複合施設の施設長が自治会など、周辺との協力の窓口になっています。隣接の諏訪日赤病院駐車場に面しており、生活道路の雪かきは出来ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍で行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため、会議開催は行っていません。資料作成を行い、関係者に送付している。資料配布にとどめてしまっており、意見の収集ができていない。	コロナ禍のため、実際にご利用者のご家族、民生委員、区長、諏訪市や広域連合、介護相談員などが集合しての、会議開催はしておらず、書面開催になっています。会議録、ご家族へのお便り、行事計画など郵送しています。今後は意見の集約・反映をしたいと話されていました	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	コロナ禍で連携は取れていない。行政主催の学習会には参加している。	コロナ禍で、中々連携は取りにくい状況にあります。運営推進会議の書面開催記録は必ず、諏訪市、広域連合、介護相談員に送付して、電話連絡と、時に入居に関しての相談などをしてしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営規定や重要事項説明書に明文化している。また入職時のオリエンテーションや施設内研修で「身体拘束廃止」の講座を取り入れ勉強会を実施している。拘束廃止委員会も設置し、法人全体として取り組んでいる	複合施設全体としても、グループホームでも拘束廃止委員会の設置があり、身体拘束をしない生活支援に全体で取り組んでいます。入職時、施設内研修での講座、カンファレンスでもスタッフ間でケアについて学び、確認しています。重要事項説明書にも身体拘束に関する項目があり明文化されています。「ご家族に丁寧に説明を行うよう心がけている」と話がありました。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	常に高齢者虐待防止関連の情報を収集し、他施設で起きてしまった虐待例を職員掲示板に掲示、回覧し職員に周知している。また日々の業務の中でも虐待が見過ごされることがないようにスタッフへ周知し、虐待予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度についてはある程度理解しているが、制度を学ぶ機会は持っていない(今回は学習会を開いたがコロナ禍により行えなかった)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	その都度十分な時間を確保し、キーパーソンになれる方はもとより、できる限り介護に参加されている方に対して説明が行えるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に1回ご利用者様満足度調査アンケートを実施し、アンケートより頂いた内容についての回答も掲示している。苦情・要望受付簿の内容やアンケート結果については運営推進会議において報告している。	常日頃、ご家族と電話で話す機会やお会いする機会に、気持ちや要望をお聞きしていて、その点がとても大事と考えています。年1回のご利用者の満足度調査アンケートの結果と、頂いた内容への回答も掲示し情報公開しています。運営推進会議への書面報告も行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニットリーダーや管理者が個人面談で職員の意見や要望を聞き、施設長に伝達し、運営に反映させている。また必要であれば施設長が個人面談をおこない、職員の率直な意見を聞いている。	年度初めにユニットリーダーと、個人面談で、理念の実践状況や職員各自の目標を話す機会が設けられています。要望があれば施設長に届くシステムがあり、運営に反映されています。また、毎月のユニット会議にて意見や要望を提案することができます。会議録で確認しました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月に1回、幹部会議を開き運営実績の報告や業績について労いの言葉をかけている。また、人事考課も取り入れて評価している。やりがいや向上心がもてるよう、有休を適宜取り入れた業務改善を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体で実施している施設内研修や、複合施設で勉強会を企画、立案し職員の教育に力を入れている。また、外部研修(動画配信やZOOM)を活用し積極的に参加し伝達講習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	リモートでの外部研修や、施設内研修に参加し、同業者との交流や自己研鑽に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	1対1の対応を心がけ居室でゆっくり話をし本人の思いを傾聴するようにしている。本人の表情や行動がいつもと違う時には声掛けを多くして話をしている。スタッフと入居者の信頼関係が構築できるよう日々努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	電話連絡で日々の様子をお伝えしている。その際にご家族の意向を聞いて希望に沿うようにしている。また困難事例のケースには感染防止対策を取り面談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	他のサービス利用の意向があるときには希望に沿うように支援し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人のできる能力が継続できるように職員はサポートし入居者と職員が共同で行うことのできる事、出来ない事の把握をして支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	定期的に電話で普段の生活の様子をお伝えしている。ご家族との対話を大切に本人、家族から希望を聞き情報の共有をしている。月1回ユニット新聞を発行し、生活状況をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染状況に応じ、可能な時には居室面会をして頂いている。感染対策を取った上で、本人と過ごす時間が持てるように環境配慮を行っている。理美容については行きつけの美容院への外出を支援している。	コロナ禍で少し落ち着いてきた時期から、感染対策を取りながら、ご家族には居室で、時間制限を15分としながらも面会して頂く様にしています。担当を中心に、芸術療法で描いた絵葉書を使用したり、日常やイベント時の写真を同封してお手紙も送っています。理美容院は本人希望で出張申込で整容する、または行きつけへの整容外出も支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士スムーズに関われるようにスタッフが間に入りコミュニケーションの橋渡しになったり入居者同士の関係が保てるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設に行かれたり入院した場合においても家族からの問い合わせ相談に応じている。同じ施設内の特養に移動の際は、ご利用者様と面会に行っている。また家族様とも顔を合わせたときにお話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人一人に担当制をとっている。定期的にカンファレンスを開きニーズについて情報の共有、共通認識が持てるようにしている。本人の表情を観察し声掛けをしている。散歩に誘い1対1で話を聞いたり、相性の良いスタッフを配置し気持ちを聞き出している。	一人一人の思いや、気持ちの安定に重きを置き、日頃から会話の中で、表情の観察や声掛けの中で、汲み取る様に努めています。ご利用者一人一人に担当が付き、または、相性の良いスタッフが、1対1でお話を聞いて、安心感が持てるようにしています。カンファレンスを定期的に開いて、ニーズの情報共有を行い、共通認識をもって、ユニット全体で取り組んでいます	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談で聞き取りを行ったり在宅ケアマネ、在宅サービスの関係者より情報収集をしている。家族から昔話を聞いたり本人からも話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	大まかな1日のスケジュールはあるが、本人の1日の過ごし方、生活リズムを尊重し対応している。それぞれの身体状況に合わせて生活に無理がないように本人のペースに合わせるように配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者を中心に定期的にカンファレンスを開催し本人の意向、ケアの方向性、ニーズについて確認し修正を行っている。アセスメントシートを変更し、困りごとの把握、出来ること、したい事を聞き出しカンファレンスで話し合いをしている。	担当者を中心に、常日頃の会話の中で、ニーズを聞き出し、定期的にカンファレンスを開き、本人の意向、ケアの方向性の修正をしています。アセスメントシートも看護師でケアマネの職員が、改良を重ねて、誰にでも分かりやすいシートとしています。したい事、出来る事、出来ない事、困りごとや、どうなりたいか、ニーズや訴えに対して、解決できる様にカンファレンスで話し合われていることをカンファレンス会議録で確認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	支援経過記録を通しその日の状態を職員が把握し情報を共有して申し送りや伝達できている。状態に変化があれば職員同士情報を交換共有しカンファレンスで話し合いプランの見直しやケア方法の変更をしている		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	職員が対応できることは対応している。家族が遠方で対応困難なケースでは受診通院介助、市の健康診断を受けるための付添い等、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍で行えていない。感染状況に応じ、買い物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	在宅時の主治医を継続し医療介護の連携表を活用して主治医との連携を図っている。家族の都合や身体状況の変化で往診に切り替える方も主治医と往診医との連携の下、スムーズに移行できるよう支援している。医療介護の連携表を活用している。	在宅時の主治医の継続を希望する入居者は、医療と介護の連携シートを活用し、家族の協力の下で連携を図っています。入居者の身体状況の変化や不安など、看護師への相談も出来ます。身体状況や家族の事情で、協力医による往診に切り替える方もいます。協力医の往診記録や主治医と往診医との連携がスムーズに移行できる支援を、連携シートで確認しました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の健康管理、日常生活の様子が掴めるように介護と看護の連携を図っている。少しの体調の変化や不安に思うことも看護師に連絡をして相談している。看護師は情報を基に状況を把握し主治医に報告し受診に繋げたり医師からの指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後早い段階で入院先の医療相談室に連絡を取り病状や経過の把握に努めている。またご家族様と連絡を取り本人の体調についてお聞きしている。退院時は入院先のソーシャルワーカーと連携しスムーズな退院支援の連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に終末期の在り方について家族に意向確認をしている。その後は1年に1回家族に意向確認をしている。本人・家族の意向に沿えるようGHでできる限りの支援に心掛けている。	入居時に、今後の推移と終末期の在り方について、ご家族に意向確認をしています。複合福祉施設であり、状態に拠ってはご家族とも相談し、特別養護老人施設へ入ること、または症状により嘱託医に相談して、入院となる事もあります。退院後はソーシャルワーカーと相談し、本人とご家族の意向に沿える様に、GHIに戻る相談支援も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	入職時のオリエンテーション、施設内研修で急変、事故発生時の対応について研修を受け学習している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	入職時のオリエンテーションや、年2回の避難訓練と水防訓練を地域の方の理解を得て行っている。夜間想定での訓練を行った。	訓練計画に基づいて、年2回(5月・10月)の避難訓練で、消防署の立ち合いも含めて実施しています。諏訪湖が少し離れた所にあるため、本部と、職員連携の下、火災と水防訓練をしています。コロナ禍で、地域との連携が得難い状況との話がありました。本部には備蓄もしっかりされており、各ユニットでは毛布なども備蓄されています。職員連絡網は電話網の他、メールの一斉送信も利用します。諏訪は寒冷地なので、冬期間の想定での寒さ対策を考えて、実施可能になる様にアドバイスしました。	災害対策に万全を期すことは、とても難しい事ですが、本部職員の応援の他に、コロナ禍ですが、地域連携で地元消防団の皆様などのご協力を仰げるように期待いたします。寒さ対策に、アルミシートやバスタオルで、肩まで覆う頭巾を作り、二重にした中に、クッションとして紙おむつを入れる方法も参考になると考えます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩であることを理解し言葉遣いに注意して対応している。	マナー研修もあり、入居者の皆様を人生の先輩と敬う姿勢があります。介護のプロとして言葉掛けや態度などを理解しながら、日常の勤務に当たっています。もし、不適切な場面を見聞きした場合は、すぐに適切な個別指導を行い、改める様に促しています。隣のユニット間の訪問も感染症が落ち着いて現在は自由に往来が行えるようドアが開放されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	生活の様々な場面において利用者が自己決定できる様支援している。迷わないようにいくつか選択肢を提示し自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々のレクリエーションの中で何がしたいか、コロナが落ち着いたらしたい事、出かけた所などお聞きしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の整容、整髪に配慮し、リビングに出向く前は身だしなみの確認をしている。日常着の選択ができるように本人に選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	厨房からの食事提供でメニューを決定している。ユニットでは入居者の嗜好をお聞きしお寿司を注文したり月1回手作り昼食を企画し、入居者と共に準備から片付けまで一緒に行っている。	法人の管理栄養士が、栄養バランスや、厨房の衛生管理をしています。入居者の方も、自身の役割として配膳を手伝ったり、また、手作り昼食では、男性の方も準備から参加され、片付けまで皆さんで協力されています。食事はほぼ、自分の手で食べられる様な支援をしています。好きな食べ物をお聞きして、注文する食事を楽しみにしています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・おやつの摂取量・水分量を把握している。水分摂取の苦手な方にはジュースやスポーツ飲料を提供している。食事摂取が少ない時には管理栄養士に相談して補食を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人一人の口腔ケアに関わり必要な支援をしている。歯科衛生士と連携しアドバイスを受けたり必要時には歯科往診へ繋げている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	ワークシートを活用しながらトイレ誘導を行いトイレでの排泄を心掛けている。一人一人の排泄時間を確認しながら、出来るだけ失敗が少なくなる様支援している。	排泄は身体の調子と、日常の生活動作がわかる大事な情報源です。排泄に関する細かな項目に処置まで記入できる排泄のワークシートを活用しています。トイレ誘導で、個々の排泄時間に配慮して、気持ち良く排泄できる支援を心掛けています。排泄の状態によって、トイレ、洗浄、シャワーなどを使用して清潔が保たれるよう対応をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	必要時は看護師、医師に相談しながら下剤の内服を行っている。その他、食事形態の工夫や適度な運動・飲水等に心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	早朝や夜間の入浴はできていないが入浴日や時間は決めず、出来る限りご本人の希望に沿える様日々努力している。	各ユニットに専用の浴室があり、可能な限り曜日や時間は決めず、入浴したい時にゆったり入浴出来るように心掛けています。季節に応じて湯の温度、アロマなどの香りや、入浴剤の色など、楽しめる工夫をしています。たまには好きな音楽を流すなども、試してみると良いのではとアドバイスしました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	午睡などご本人の生活習慣に合わせて休める様支援している。安心して眠れるよう声掛けをしたり、眠れない時はお茶を提供したり話を聞くなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服の目的や副作用などについてファイルにまとめスタッフの目の届く場所に置き、時間のある時、目を通せる様配置している。食前食後薬・点眼など区別し間違えないよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の生活歴や趣向に合わせて役割が持てるよう作業などの提供をしている。また、得意なことや趣味を生かせるような余暇時間が過ごせるよう工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍ではあるが、感染対策を取り施設周辺の散歩の機会を持つよう心掛けている。理美容や慶弔事には家族の協力を得て感染対策を徹底した上で外出している。	コロナ禍での慶弔時や、行きつけの理美容院への外出、日常使用する眼鏡ケースの買い物などは、感染対策を取り、ご家族の協力を得て外出しています。周辺への散歩は、以前は諏訪湖まで行っていました。コロナ禍では感染対策をしながら、近くの畑などのお花を見る散歩などに変更し工夫しながら行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少額を入居者の希望により自己管理している方もいる。普段は事業所で管理している。本人の希望により外出、買い物の際にはスタッフが同行し、相談しながら買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時には電話がかけられるよう支援している。年賀状や手紙などご本人の希望を聞いて書けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温度調節・遮光など心地よい環境が作れるよう配慮している。季節感を味わって頂けるようにユニット内に装飾品を飾り、見て楽しんで頂けるよう工夫している。	共用空間には大きな窓があり、遮光や採光の調整と、温度管理をしています。家族からの切り花の差し入れなどが飾られたり、壁面に皆さんの作品やクリスマスツリーなどを飾り、季節感を演出しています。中心部にあるゆったりとした空間で、スタッフの皆さんの働きも良く観えて、常に声を掛け合える居心地が良い雰囲気があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースで一人で過ごせる場所は少ないが、居室でゆっくり過ごして頂けるよう支援している。また、ゆっくりくつろいでいただけるようお茶・コーヒーなども提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人やご家族と相談しながら家電やカーペットを持参して頂き、ご本人の過ごしやすい環境を整えられるよう配慮している。	採光が良い窓があり、外の季節の移り変わりも見えて、明るく広い居室になっています。備え付けの収納の他に、自宅で使っていた馴染みのある家具やテレビを持ち込み、家族の写真なども飾られています。ユニットの中で諏訪湖の花火が楽しめる場所があり、花火見物が大きな恒例行事の1つとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人の入居者が安全に自立した生活ができるよう環境整備を行っている。また、表札などを作り場所の確認ができるよう工夫している。		